

# Shinsuma News

2020 January No.214

## 年頭所感

理事長・院長 澤田勝寛



### 未来への架け橋

石川県粟津温泉に、奈良時代にできた1300年の歴史を誇る法師旅館という温泉旅館があります。ギネスブックにも掲載されました。当主は46代目、法師善五郎さんです。

神戸にダイエーができたのが昭和32年。創業者の中内功さんは一世を風靡しましたが一代で倒産しました。どんなに大きな企業でも、次世代へバトンをつないでいくことが、いかに難しいかが分かります。

ユニクロの柳井社長もソフトバンクの孫社長も初代です。初代から二代目につながるのは30%、二代目から三代目につながるのは15%だそうです。

どんな企業がつながっていき、どんな企業が継続できないのか。シャープは買収され、東芝は切り売りされました。まず、企業理念がありません。理念がはっきりしているファミリー企業などは結構つながっています。トヨタは色々なことがあっても、本家がしっかりしています。松下電気(現パナソニック)もそうです。

新須磨病院ができたのは昭和35年で、今年が開設60年となります。ドラッカーが「事業の目的は継続することである」と述べています。

「医療・介護・教育を通しての社会貢献」が慈恵会グループの目標です。そのためには継続することが重要です。大転換期の現在を生き抜き、20年後に「あの時は本当に大変だったがよくここまで来られたものだ」といえるように、できることは何かと考えました。

### ◆柔軟に発想の転換を図らないと結局は取り残される

2019年1月、ラスベガスの「家電と情報技術の見本市」で、トヨタの豊田章男社長が「私はこれからのトヨタを、自動車会社を超え、人々の様々な移動を助ける会社に変えることを決意した」と宣言しました。価値観を変えるとの決意表明です。

昔、馬車の会社が潰れました。馬車を馬が引く車とっていた会社は潰れ、人の移動手段であると考え、鉄道や車に乗り換えた会社は倒産しませんでした。

マッチもそうです。マッチを火薬だと思っていた会社は潰れました。火を点ける道具だと思った会社はライターなどに転換して存続しました。ですから豊田章男さんは本当に偉いなと思ったのです。

近い将来、ガソリン車はなくなり間違いなく電気自動車の時代になります。車の部品もガソリン車なら3万点くらいあったものが、電気自動車では2万点くらいになるそうです。モーターと電池があれば車ができてしまいます。ソニーやパナソニック製自動車が走ります。そしてカーシェアで車は売れなくなり、駐車場も空いてきます。色々なことが様変わりするでしょう。業態や仕組みが大きく変わる時代です。

デジカメを開発したコダックは多角化に遅れ、フィルムを捨てきれず倒産しました。富士フィルムはフィルム技術を活かしながら、製薬会社を買収し見事に総合ヘルスケアカンパニーに転身しました。時代の節目を見誤ってはいけないということです。

## ◆少子高齢化と多死社会に必要な医療

医療の世界も大きく変わりつつあります。医療にとって、少子高齢化は大きな問題です。2025年問題のあとの2040年のことも考えなくてはなりません。高齢者数がピークに達し多死社会を迎えます。高齢の患者さんは独居か老老介護、病気が治っても帰るところがありません。在宅といっても家族の支援があつてこそその在宅です。

出生者数は年間約90万人、亡くなる方が130万人。毎年40万も人口が減っています。そして20年後には亡くなる人が更に50万人ほど増えるといわれています。多死社会です。死に場所がありません。想像を絶する社会になります。今はまだ高齢化社会の入り口に差ししかかったところにすぎません。

急性期医療はピークを過ぎつつあります。手術も低侵襲手術が普及して、入院期間が短くなっています。急性期の病床は空きつつありますが、高齢者の入院需要は増加しています。肺炎や心臓・脳血管疾患が増加し、回復期の比重が増してきます。都市部では看取り場所不足で在宅需要が急増します。

## ◆塗り替わる地域の医療地図

病院の統廃合と機能再編が進んでいます。日経ヘルスケア2019年1月号では「進化する医療介護複合体」という特集を組んでいました。最近、多くの民間病院は医療と介護の複合体になってきています。

慈恵会グループは医療と介護と教育の3本柱からなる、14施設の複合体です。戦艦大和を中心とした連合艦隊のようなものだと思っています。旗艦(新須磨病院)の周りに巡洋艦、駆逐艦、航空母艦、魚雷艇、潜水艦などを従えてい

ます。当法人では医療と介護だけでなく、神戸総合医療専門学校と松江総合医療専門学校という教育機関を2つ持っていることが強みです。その強みを活かし、医療・介護・教育をリンクさせることが必要と考えています。

新須磨病院は147床。新須磨リハビリテーション病院が56床、老健施設「いきいきの郷」が80床、計283床の病床数です。さらに2つの有料老人ホームで計145部屋あり、合計428床になります。

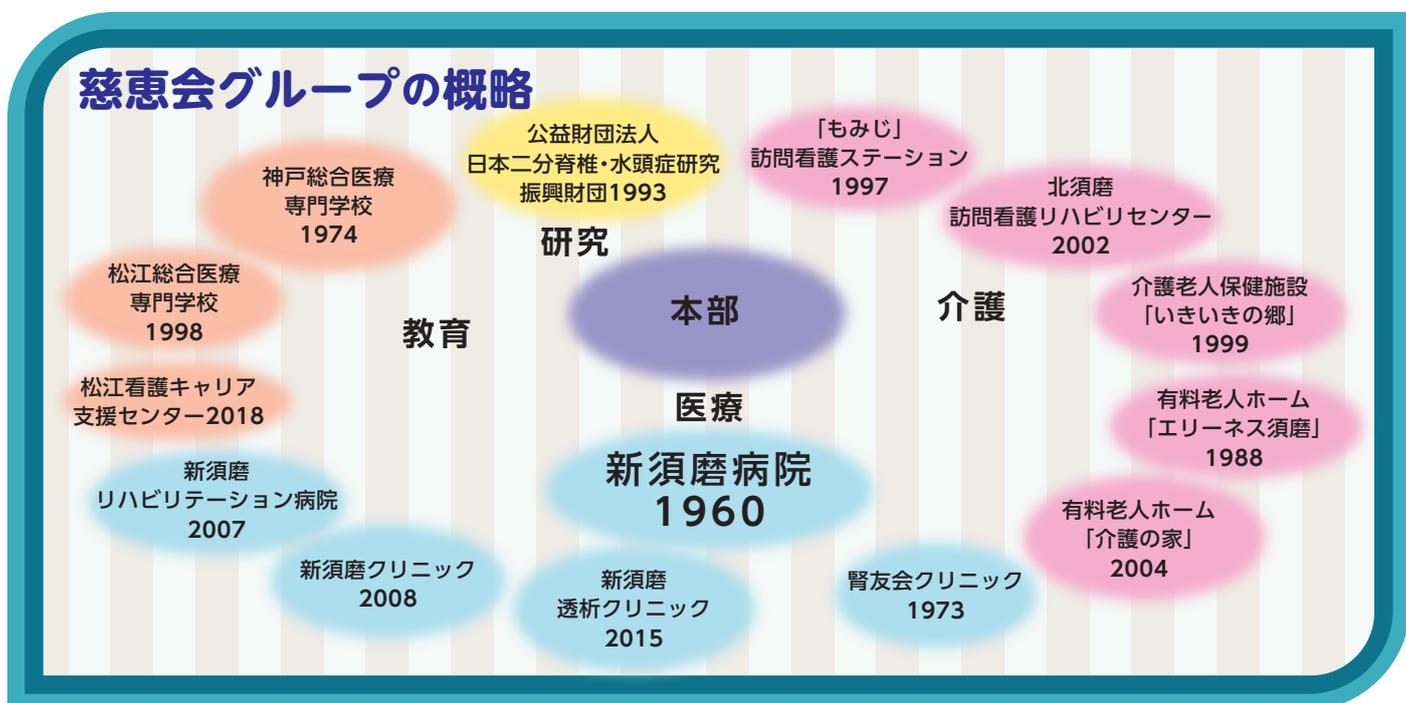
医療と介護の融合した形で、新須磨病院を旗艦とした「慈恵会ヘルスケアネットワーク」というシームレスな医療と介護の提供体制がとれています。そのため利用者には隙間のない医療と介護の提供を行うことができます。

16世紀のフランス人外科医、アンブロワーズ・パレが「ときに治し、しばしば和らげ、つねに慰める」という言葉を残しています。いい言葉です。私たちは今まで「治す」ことばかり考えてきました。しかし高齢者を完全に「治す」ことはできません。「苦痛を和らげ、常に慰める」、これに尽きます。「とことん医療」から「ほどほど医療」を選択することも必要です。

これからの病院に求められることは、安全で質の高い医療、明確な事業定義、制度の先取り、家族・知己を安心して紹介できること、だと考えています。

須磨南地区の基幹病院として、一層円滑な病診連携、病病連携を図りながら、親切・安全・最高の医療・介護・教育を提供していく所存です。

須磨区に「未来への架け橋」をかけるため倍旧のご支援をお願いします。



# 三つの「不」をとる医療を！ 不安をとって安心 不快をとって快適 不満をとって満足

## 病院機能評価の認定を受けました！！

3rdG:Ver.2.0の認定基準を一発でクリアすることが出来ました。今回で4回目になります。

1回目の2004年、Ver.4.0の審査を受けた時は、「とにかく受審することが先決だ」と何も勝手がわからないまま受審し、顔から火の出る思いをしたのが懐かしく思い出されます。

4回目の今回は、院内環境の整備や診療内容に求められる施設基準を、職員一丸となって改善してきた成果が実を結び「改善要望事項」なしの認定となりました。

私たち職員一同、機能評価の認定に恥じないよう、より一層研鑽し、安全で質の高い医療を提供してまいります。



## フットケア外来で歩行時の足底圧が計測出来るようになりました！

リハビリテーション科 科長代理 山川 亮

### 足圧分布測定システム F-スキャンⅡ

タクタイルセンサーシステム「F-スキャンⅡ」は高解像度センサーが内蔵された足底シートを靴の中に挿入し、歩行時に発生する圧力の分布を多彩なソフトウェアを使用して測定、記録するシステムです。これにより歩行の状態の確認やインソール作成時の設定・適合評価をより詳細に行なうことができます。

足底シートの特長：(写真)

- ①厚さ 0.15mm の超薄型により靴の中に簡単に装着できる
- ②最大 955 点のセンシングポイントが内蔵され、高密度な圧力分布の計測ができる
- ③足のサイズに合わせて自由に切ることができる

適応疾患：

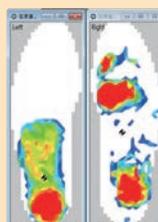
- 足趾・足潰瘍
- 下肢の変形性関節症
- 足底筋膜炎
- 外反母趾 など

主な用途：

- インソールや靴の設計・評価
- 異常歩行の確認
- 足部機能の評価
- 術前・術後の比較 など



足底シート



圧力分布の表示



実際の計測の様子

## 令和二年(2020年)をむかえて

看護部 部長 土肥 加津子

新しい年を迎えました。お陰様で新須磨病院は地域の皆様はじめ多くの方々力を得て、旧年を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。

昨年のホームドラマ『俺の話は長い』をご覧になられましたか。忘れかけそうな家族のカタチ、人々の絆、生き方を笑いあり涙ありで展開していて…つい見入ってしまいました。節目のお正月に、家族や大切な人のことを考えたり過ごしたりして、照れずに「ありがとう」と届け合えたら…元気が増えそうですね。「2020」年は応援(20=ふ・れー)の年。自分にも、大切な人にも、オリパラ選手にも、元気が届きますように…「フレー！フレー！！」。

当院も今年で60年。人に例えると還暦で「第二の人生の出発」です。創設にかかわった方々と一緒に働くことはもうできませんが、沢山の縁で繋がれたこの再出発に改めて振り返り、創設の願いの継承、時代の変化への呼応、何より患者さんやご家族のお気持ちを感じ受けとめ回復の道のりを一緒に歩めているか、明るい希望を応援できているか…。歴史に想いを馳せながら成長を続けたいと思います。

今年が皆様にとりまして、佳き一年となりますよう、お祈り申し上げます。



## 年の始めの雑感

医療サービス課 課長 野々村 誠

あけましておめでとうございます。

昨年では病院機能評価を受審しました。病院全体で病院機能を再確認することができ、職員のチーム力の高さを改めて実感しました。

さて、2020年、楽しいニュースは何か？東京オリンピックは楽しみです。テレビで応援する程度、実際の会場で見たら素晴らしいと思います。一番は帰省した際に甥っ子と遊ぶことでしょうか。たまにしか会えないので、甥っ子の話すことなど楽しみにしています。少しでも楽しい時間にするため、最近ではボードゲームと一緒に遊んでいます。

今年も新しいゲームを持って帰り楽しく遊びました。将棋、オセロ、人生ゲームとは別にいろいろな種類があり、大人も真剣に遊ぶことができます。ボードゲームでは勝つためにルールを覚え、戦略を立て、得点計算も指を使ったり暗算したり、ゲームの展開に一喜一憂し、とても楽しい時間を過ごせます。今では小学生の甥っ子に負けることもしばしば、おじさんの威厳が問われます。大人も楽しめるので、息抜きに認知症予防にお勧めです。



## カンガルー保育所のクリスマス会

経理課 井上 由希子

12月8日、クリスマス会が開催されました。クリスマスの飾りでムード満点の保育所、一方、いつもと違った雰囲気には子供たちは少々困惑気味…。笑顔と泣き顔が入りまじるステージはとても可愛らしく、保育所で家で練習した成果を一生懸命発揮していました。その後の会食、サンタさんの登場と参加者全員で心温まる時間を過ごしました。保護者にとっては年に一度の保育所での子供の姿が見られる機会です。家では見せない逞しい表情に成長を感じました。

カンガルー保育所は小規模ですが、それ故のアットホームさが一番の魅力です。様々な年齢の子供たちが兄弟のように一緒に過ごす時間も多く、その中で年下の子への気遣いや年上の子への憧れが自然と育まれています。勤務に合わせた預り保育はもちろん、育児の相談も気軽にできるカンガルー保育所はお母さん職員にとって強い味方です。

